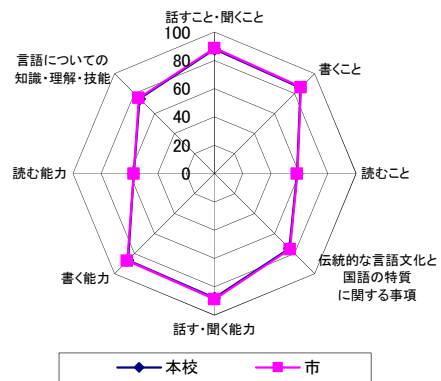


宇都宮市立旭中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	87.9	88.7	89.1
	書くこと	85.9	86.4	64.2
	読むこと	58.4	58.5	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.7	75.5	72.0
観点別	話す・聞く能力	87.9	88.7	89.1
	書く能力	86.6	87.1	66.7
	読む能力	57.1	56.9	55.0
	言語についての知識・理解・技能	74.9	75.6	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

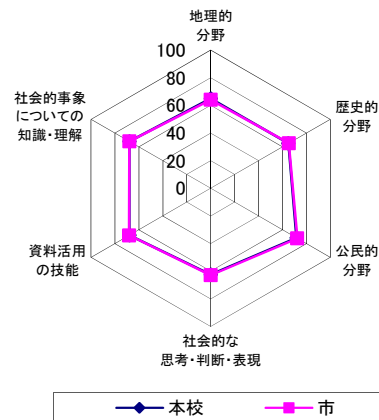
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●正答率が市平均より0.8ポイント低い。 ○話の内容を正確に聞き取る問題の正答率が、市平均より0.3ポイント高い。 ●聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取る問題の正答率が、市平均より1.0ポイント低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・相手のことを考えなが話す技能を育む学習活動を行い、目的意識をもって話す態度を育成する。
書くこと	●正答率が市平均より0.5ポイント低い。 ○3段落構成で書く問題の正答率が、市平均より0.5ポイント高い。きちんと構成を考えて内容を書くことができる。 ○自分の考えの理由を書く問題の正答率が、市平均より1.4ポイント低い。	・書いて表現する機会を多く設け、言語活動の充実を図る。 ・主張を明確に伝えるための表現や構成を工夫して、文章を書く学習活動を行う。
読むこと	●正答率が市平均より0.4ポイント低い。 ○文章の表現の仕方をとらえる問題の正答率が、市平均より7.4ポイント高い。 ●登場人物の心情をとらえる問題の正答率が、市平均より2.3ポイント低い。	・人物の描写や発言、情景描写に心情が写し取られていることを理解させる学習活動を行う。それを実際の文学作品の中で読み深める活動を、計画的に行う。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●正答率が市平均より0.8ポイント低い。 ○用言の活用問題の正答率が、市平均より8.8ポイント高い。 ●第3学年までに学習した漢字を読む問題の正答率が、市平均より最大10.7ポイント低い。小学校で学習した漢字を書く問題の正答率は市平均より最大7.9ポイント低い。	・基礎的な漢字の技能を高めるために、計画的な漢字指導を行う。補助プリント、漢字練習ノートを活用して、反復学習を行う。

宇都宮市立旭中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	65.0	64.0	50.9
	歴史的分野	64.9	65.3	57.1
	公民的分野	71.7	72.4	67.0
観点別	社会的な思考・判断・表現	62.5	62.9	52.3
	資料活用 の技能	67.9	68.2	58.1
	社会的な事象についての知識・理解	68.0	68.0	59.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

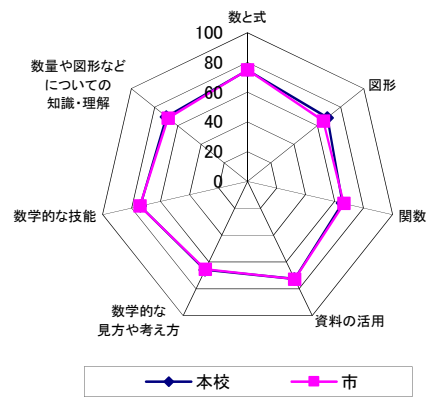
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	●南米地図から読み取る問題の正答率が、市平均より2.9ポイント低い。日本の位置について資料で読み取る問題で、市平均より4.4ポイント低い。 ○分野全体では市平均より1.0ポイント高い。北方領土や北米の工業について知識を問う問題では、市平均より2.0ポイント高い。	・資料の読み取りが弱い傾向が見られる。それぞれの資料の特徴をとらえられるようにしていく必要がある。
歴史的分野	●正答率が市平均より0.4ポイント低い。特に奈良時代の税制、建武の新政についての正答率が低い。 ○16世紀に活躍した人物に関する問題の正答率が、市平均より2.8ポイント高い。	・古代の歴史など、かなり以前に学習した内容に関して復習する機会を設ける。 ・政治のしくみなどは時代により異なるので、各時代の違いや類似点を比較させながら、理解させる。
公民的分野	●正答率が市平均より0.7ポイント低い。採決の仕方や、フランス人権宣言に関する問題が、特に正答率が低い。 ○地方自治にに関する問題は、市平均より3.5ポイント、議院内閣制の仕組みに関する問題は2.9ポイント高い。	・フランス人権宣言など、特に正答率が低かった問題については、歴史的分野との関連もふり返りながら、復習の機会を多く設ける。 ・資料の読み取りに関する問題も全体的に正答率が低いので、資料読み取りの問題も、数多く解かせる。

宇都宮市立旭中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	74.8	75.0	70.3
	図形	68.7	65.2	63.4
	関数	65.4	66.4	51.5
	資料の活用	72.7	72.8	63.9
観点別	数学的な見方や考え方	65.9	65.5	55.1
	数学的な技能	74.0	74.2	67.5
	数量や図形などについての知識・理解	69.8	68.3	64.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

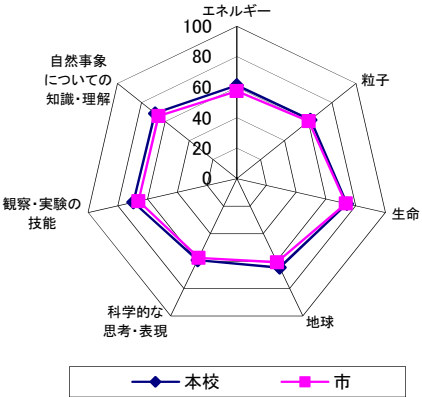
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○15問中8問で市平均を上回っている。特に累乗を含む正負の数の減法では、4.4ポイント高い。 ●全体では、正答率が市平均より0.2ポイント低い。	・学年や単元にかかわらず、基本的な計算技能は繰り返し問題を解かせ、定着させる。
図形	○全体では、市平均より3.5ポイント高い。特に平面図形の仮定と結論についての理解は、市平均より8.7ポイント高い。 ●線分の中点を、垂直二等分線を作図することによって求める問題では、市平均より1.4ポイント低い。	・作図は、1年生の時に学習してからはなかなか取り組む機会がないので、2・3年の学習の中で作図を絡めた問題に取り組ませる。 ・問題をよく読み、何を作図するのか(交点なのか直線なのか)を理解させる。
関数	○比例・1次関数では、示されたグラフを根拠に説明する問題で0.3ポイント、グラフをどのように活用すればよいかを指摘する問題で2.5ポイント、正答率が市平均より高い。 ●全体では、正答率が市平均より1.0ポイント低い。	・yをxの式で表すこと、グラフの傾きと切片の意味、変化の割合など、関数の基本的な知識と技能の定着を図る。
資料の活用	○度数分布表から階級の相対度数を求める問題では2.2ポイント、2つのさいころを投げるときの確立を求める問題では1.9ポイント、正答率が市平均より高い。 ●全体では、正答率が市平均より0.1ポイント低い。	・資料の活用では、値に関する語句が多く出てくるので、その語句の意味とその値の求め方を身に付けさせる。 ・確率の問題は、様々な問題に取り組ませ、多くのパターンに対応できるようにする。

宇都宮市立旭中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	61.1	57.5	51.6
	粒子	61.8	60.3	53.0
	生命	74.1	73.4	67.9
	地球	64.8	60.9	57.4
観点別	科学的な思考・表現	59.3	57.7	51.5
	観察・実験の技能	69.6	66.2	58.2
	自然事象についての知識・理解	68.7	65.7	61.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

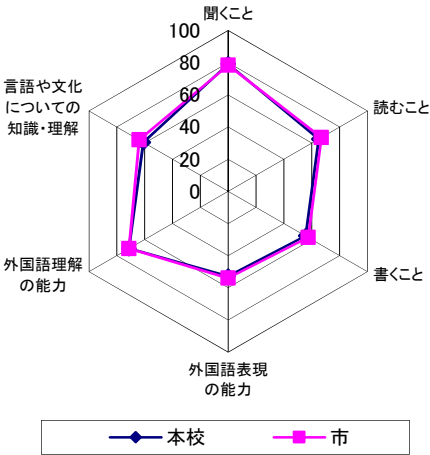
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○エネルギーの領域では、正答率が市平均と比較するとポイントは高い。特に仕事とエネルギー、電流の性質では高水準である。 ●光の性質の観点別では思考の正答率が低い。特にレンズの像についての問題では市平均からも低い。	・この単元では概念の形成が難しいため、実験を多く行うことで理解を深めている。今後も継続して指導する。 ・レンズの像では実験とともに、作図の指導を充実させ、物体と像の関係について理解させる。
粒子	○粒子の領域では、正答率が市平均と比べてポイントはやや高い。ろ過の粒子モデルの問題は90%以上の正答率である。水の電気分解などの正答率も高い。 ●塩化銅水溶液の電気分解での気体の性質の正答率が低い。知識として出てくる気体を覚えていない。	・現在の指導を継続するとともに、更に多くの生徒が理解できるよう演示や視覚教材等を取り入れながら授業に取り組む。
生命	○生命の領域では、正答率が市平均とほぼ同じ水準である。観点別では思考の正答率が高い傾向にある。特に、動物の分類においては3ポイントほど高い。 ●遺伝の規則性では遺伝子の組み合わせの正答率が低い。	・遺伝の仕組みを理解させ、遺伝子を記号で表わす演習を反復練習させる。遺伝子についての理解はできているので、今後も小テストなどを行い理解度を深める。
地球	○地球の領域では、正答率が市平均より3ポイント高い。火山については市平均よりかなり高い。 ●大気中の水蒸気の問題では正答率が市平均よりは高いが、知識・思考とも50%に満たない。	・水蒸気の変化は、その仕組みを視聴覚教材等を利用して理解させる。また、飽和水蒸気量について、モデル等を利用して生徒自身が説明できるよう、くり返し指導する。

宇都宮市立旭中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	79.1	78.4	72.9
	読むこと	65.0	66.9	63.2
	書くこと	55.5	57.5	58.4
観点別	外国語表現の能力	52.8	54.0	51.1
	外国語理解の能力	71.3	71.3	65.9
	言語や文化についての知識・理解	60.9	64.0	68.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○対話の内容を聞き取り、適切に応答する問題の正答率が、市平均より4.8ポイント高い。 ●英文の要点を聞き取る問題の正答率が、市平均より2.7ポイント低い。	・対話文やまとまりのある英文を数多く聞かせ、要点を聞き取る力の向上を図る。 ・聞き取る力を付ける土台作りとして、音読、暗唱、語彙指導を充実する。
読むこと	○長文を読んで内容を把握する問題の正答率が、市平均より0.3ポイント高い。 ●英文の情報・条件をもとに、適切なものを選んだり、対話の流れと地図から登場人物の適切な発言を判断したりする問題の正答率が、市平均より1.4ポイント低い。	・英語の説明と絵図を組み合わせた問題に数多く触れさせることにより、資料を正しく読み取る力の向上を図る。 ・英文を読むときに、対話の流れや話の展開に注意して、登場人物の発言を考えさせる。
書くこと	○自分が好きなことについて説明する文を付け加える問題の正答率が、市平均より0.4ポイント高い。 ●英単語を正しい語順に並べかえて書く問題の正答率が、市平均より1.8ポイント低い。	・基本英文の暗唱など、口頭練習を数多く積むことにより英語特有の語順に慣れさせる。 ・英語が使えるようになるためのコミュニケーションにつながる対話ドリルを繰り返し、使う場面をイメージしながら語順問題に数多く取り組ませる。

宇都宮市立旭中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎学力の定着	年間100回ほど学習課題プリントを与え、教科別ノート(通称:学力向上ノート)に書かせて提出させる。(6年目)	家庭学習の時間が増え、学習に取り組む意欲が高まった。
家庭学習の習慣化	自主学習ノート実施(2年目)	各自が学習課題を考えて取り組んでいる。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・基礎的な学習内容の定着を図るために、短い時間を活用して行う指導を週に1回設定する。全教員がＴＴで各学級で指導にあたり、全校生徒が与えられた課題に取り組む。
- ・家庭学習内容の充実を目指し、自主学習ノート一本に絞り、取組の具体例を数多く加えた新たな「学習の手引き」を用いて指導や生徒の活動を充実させる。